

## 育種部

### ◆生食ブドウ育種科

生食用ブドウのオリジナル品種育成に関する研究を行っています。また、着色に関する遺伝子型を診断し、効率的な品種選抜を行っています。育成された品種については、栽培管理の手引きを作成し、技術の平準化と高品質果実生産に向けて取り組んでいます。

#### <主要成果>

- 「ジュエルマスカット」「甲斐のくろまる」(平成 25 年品種登録)
- 「甲斐ベリー 3」(平成 28 年 1 月出願公表)
- 幼苗での遺伝子診断による選抜



「甲斐ベリー 3」の育成



交雑個体の果実特性調査

### ◆醸造ブドウ育種科

醸造用ブドウの品種育成に関する研究を行っています。ブドウの栽培からワインの醸造まで一貫して取り組み、耐病性や裂果性等の栽培性とワイン品質に優れた品種の育成を目指しています。

#### <主要成果>

- 「モンドプリエ」(白ワイン用・平成 28 年品種登録)
- 「アルモノワール」(赤ワイン用・平成 21 年品種登録)
- 「ビジュノワール」(赤ワイン用・平成 20 年品種登録)
- 「甲斐ノワール」(赤ワイン用・平成 4 年品種登録)



ワイン品質検討会



試験醸造ワイン

### ◆落葉果樹育種科

モモ、スモモ、オウトウのオリジナル品種育成に関する研究を行っています。緑枝接ぎなどの手法を用いて育種年限の短縮を図りながら、山梨県の気象条件に適合し、消費者ニーズに合った優良品種の開発を目指しています。

#### <主要成果>

- モモ「夢みずき」(平成 25 年品種登録)、「ひめっこ」(平成 24 年品種登録)
- スモモ「サマーエンジェル」「サマービュート」(平成 17 年品種登録)
- オウトウ「甲斐オウ果 6」(平成 27 年出願公表)
- オウトウ「ぼれん太」(平成 28 年 1 月出願公表)



スモモの交雑



緑枝接ぎによる育種年限短縮

## 栽培部

### ◆生食ブドウ栽培科

省力栽培を可能にするため、果房管理労力を削減できる植調剤の活用法、作業を単純化する整枝法などの開発を行っています。最近問題となっているブドウの着色不良については、要因を解析し、品種群ごとの着色向上対策の確立に取り組んでいます。また、全国的に栽培面積が急増している「シャインマスカット」について、高品質安定生産技術の開発に取り組んでいます。

#### <主要成果>

- ジベレリンを利用した摘粒作業の省力化技術
- 「シャインマスカット」の果粒肥大促進、果皮黄化抑制対策
- ブドウの着色不良の要因解析と着色向上対策
- 施設ブドウの高品質安定生産技術の開発



シャインマスカットの高品質化試験



省力栽培の体系化



ハウスシャインマスカットの栽培試験



GA 1 回処理による着色向上 (ゴルビー)

### ◆落葉果樹栽培科

モモ、スモモ、オウトウの栽培技術に関する試験を行っています。高品質で省力栽培に適する品種の特性調査、新しい仕立て方法の管理技術、安定した結実が得られる受粉技術、省力的な着果調節技術の開発などに取り組んでいます。

#### <主要成果>

- モモの早期着果調節と短果枝削減による省力化
- 高温がオウトウの胚珠退化に及ぼす影響の解明
- 果皮色カラーチャートによるスモモ「サマーエンジェル」の適期収穫
- スモモの結実安定に向けた人工受粉技術の開発



スモモの結実安定技術



高温で退化したオウトウの胚珠



処理 無処理  
モモの早期着果調整



スモモのカラーチャート

## 環境部

### ◆病害虫科

果実の安定生産に向け、省力的で環境負荷の少ない病害虫防除技術の開発や薬剤防除法の改善に取り組んでいます。主要病害虫の生態に関する研究や効率的に防除するための発生予測も行っていきます。

#### <主要成果>

- ブドウべと病に対する花穂の感受性と有効薬剤
- ブドウを加害するクビアカスカシバの発生生態
- ブドウ黒とう病に効果の高い防除体系
- 携帯情報端末を用いたブドウの病害虫診断サポートシステムの開発



ブドウべと病による花穂の被害



クビアカスカシバ幼虫の食害



カイガラムシ類によるモモ果実の被害



病害虫診断サポートシステム

### ◆生理加工科

高品質安定生産を目標に、環境にやさしい土壌管理、施肥法の開発を行っています。また、各種生理障害対策の研究や、東南アジアに向けた海上輸送における果実の鮮度保持技術の開発を進めています。

#### <主要成果>

- 堆肥の長期連年施用によるモモ園の土壌養分と果実生産への影響
- 県産果実の輸出促進に向けた輸送過程における鮮度保持技術の改善
- 氷温貯蔵によるモモ果実の品種別鮮度保持効果と出庫後の温度管理
- ブドウ園における牛ふん堆肥の連用施用が土壌・果実品質に及ぼす影響



ライシメーター試験



モモにおける堆肥長期連年施用試験



モモ枯死障害の原因解明



輸出促進に向けた鮮度保持技術

## 明野試験地 (栽培部)

### ◆醸造ブドウ栽培科

「甲州」の安定生産や、簡易で早期成園化が可能な栽培技術の確立、および醸造専用品種の高品質・安定生産技術の確立に取り組んでいます。また、台木品種の特性や、仕立てや整枝・剪定方法の違いがワイン品質に及ぼす影響について取り組んでいます。

#### <主要成果>

- 白色シートのマルチ処理が垣根仕立て赤ワイン用ブドウに与える影響
- 仕立てや整枝・剪定方法の違いがワイン用ブドウの果実特性に及ぼす影響
- 3種の台木品種に接ぎ木したワイン用ブドウの特性
- 簡易雨よけ設置による棚仕立て短梢剪定栽培ワイン用ブドウの高品質・安定生産



仕立てと整枝剪定方法の比較 (左: 垣根仕立て、右: 棚仕立て)



台木による果房への影響 (メルロ)  
(左: グロワール、中: 101-14、右: 3309)



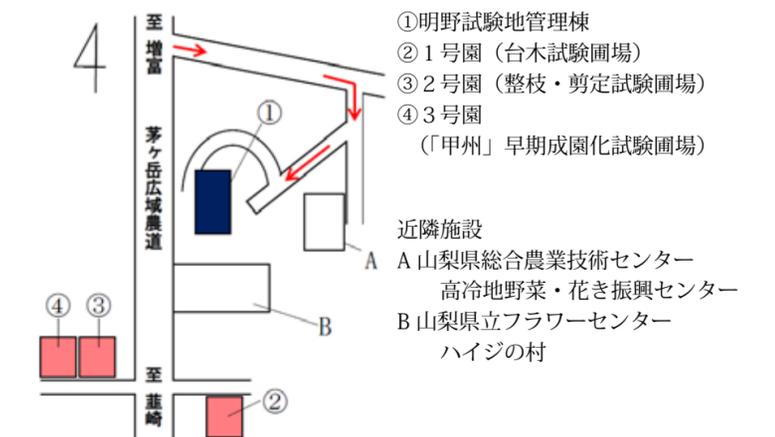
台木による新梢伸長への影響 (甲州)  
(左: グロワール、右: 101-14)



簡易雨よけによる高品質安定生産



「甲州」の高品質・安定栽培試験



## 農業革新支援スタッフ（農業革新支援センター）【果樹】

＜果樹生産に係る革新支援及び専門技術の普及指導＞

試験研究部門と連携し、新たな栽培技術やオリジナル品種などの普及定着に向けた普及活動の企画立案、並びに先進的な農業者からの高度な技術相談を行っています。また、県内の各地域普及センターの実施する普及活動に対し、J A など関係機関との密接な連携を図りながら支援活動を行っています。

＜重点プロジェクト計画＞

- 果樹優良品種導入による産地ブランドの確立
- 果樹の各種障害抑制技術による生産安定



普及指導員・営農指導員等への研修会

新作目(マンゴー)栽培の取組

## 専門学校 山梨県立農業大学校 果樹教場

＜県内果樹生産における担い手の育成＞

専門学校山梨県立農業大学校果樹教場を併設しており、専攻科を対象に高度な栽培技術の習得を目指した先端技術実習や講義を行い、2年次には成果発表や、論文作成を通じて果樹経営のスペシャリストの育成に取り組んでいます。

また、果樹試験場独自に研修生を受け入れ、地域の中核的農家の担い手となる人材を育成しています。

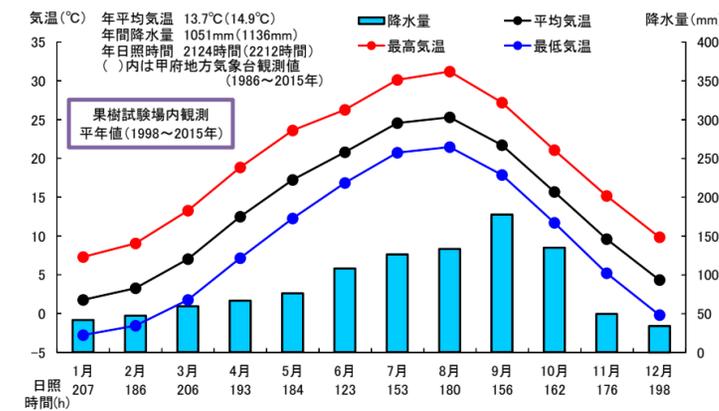


専攻科先端技術実習及び講義

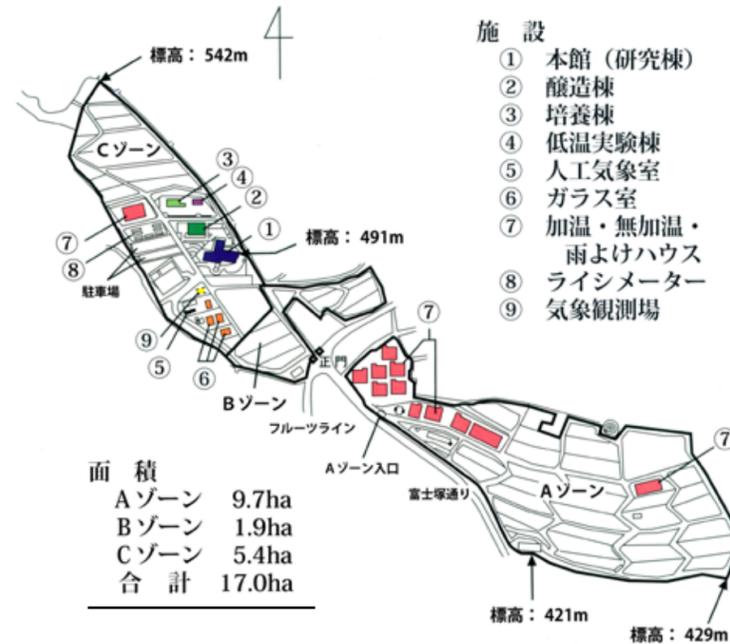
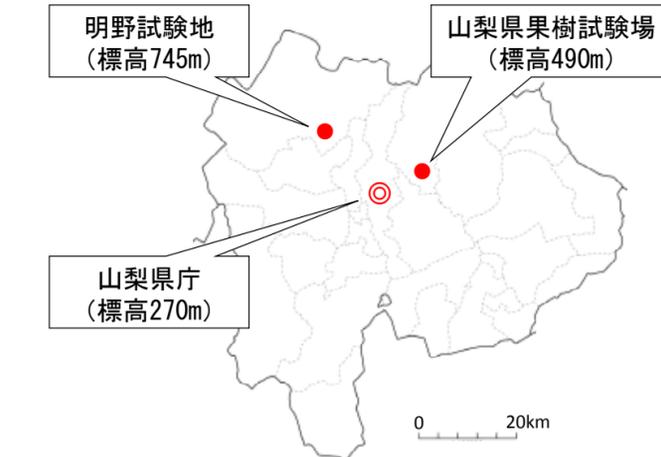
## 本県の気象

山梨県の果樹地帯は、四方を2,000 m以上の山並みに囲まれ、富士川(釜無川)と笛吹川及びその支流の扇状地を中心に広がっています。

降水量は少なく、日照時間は長い。また、夏期は高温で日較差が大きい典型的な内陸気候であり、果樹栽培に適しています。



## 圃場・主要施設配置図



## 住所・連絡先

〒405-0043  
山梨県山梨市江曾原 1204  
TEL 0553-22-1921 ~ 2 FAX 0553-23-3814

◆明野試験地  
〒408-0201  
山梨県北杜市明野町浅尾 2455  
TEL 0551-25-4501 FAX 0551-25-4502



ホームページ: [http://www.pref.yamanashi.jp/kajushiken/103\\_001.html](http://www.pref.yamanashi.jp/kajushiken/103_001.html)  
電子メール: [kajushiken@pref.yamanashi.lg.jp](mailto:kajushiken@pref.yamanashi.lg.jp)

平成28年10月作成

果樹生産技術の最高峰を目指す情報発信基地

## 山梨県果樹試験場

YAMANASHI FRUIT TREE EXPERIMENT STATION



甲斐オウ果6

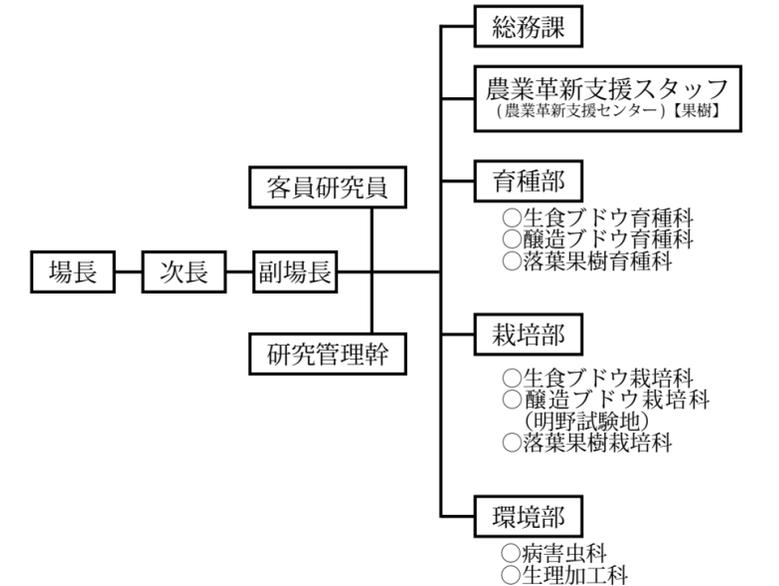
ぼれん太

山梨県果樹試験場の育成品種

## 沿革

- 昭和12年4月(1937年) 昭和11年1月、東山梨郡のブドウ、カキが大凍害を受けた。これを契機に果樹の試験研究機関設立が県に陳情され、県議会で設立案が可決した。
- 昭和13年12月(1938年) 東山梨郡上万力村(現山梨市)に山梨県立農事試験場園芸分場として開場した。総員3名 総面積2.7ha
- 昭和22年4月(1947年) 果樹農業後継者の技術習得のための研究生制度を設立した。
- 昭和25年4月 ブドウ育種試験地を分場内に設置した。
- 昭和28年7月 山梨県農業試験場果樹分場と改名した。
- 昭和40年3月 山梨市江曾原に試験圃場5.5haを拡充した。
- 昭和41年11月 山梨県果樹試験場として独立した。
- 昭和45年4月 農業大学校山梨教場を併設した。
- 昭和63年4月 育種部、栽培加工部に組織再編した。
- 平成9年11月(1997年) 創設60周年を経て甲府盆地を望む山梨市江曾原に移転した。総面積17.0ha
- 平成10年4月 育種部、栽培部、環境部に組織再編した。
- 平成18年4月(2006年) 果樹技術普及部を設置した。また、育種部に生食ブドウ育種科を新設した。
- 平成20年4月(2008年) 栽培部に醸造ブドウ栽培科を新設するとともに、北杜市明野町に試験圃場(0.7ha)を設けた。
- 平成28年4月(2016年) 果樹技術普及部を廃止し、農業革新支援スタッフを新設した。また、北杜市明野町の試験圃場を明野試験地に改名し、拡充した(合計0.9ha)。

## 組織



※専門学校 山梨県立農業大学校果樹教場を併設

(平成28年4月1日現在)